

# 平成20年度 地区別懇談会開催



学長挨拶(九段校舎)



懇談会風景(柏校舎)

平成二十年度二松学舎大学地区別父母懇談会が、六月二十一日(土)の福岡市・新潟市を始めとし、全国八都市(開催日程順に東京(九段校舎)・柏市(柏校舎)・鹿児島市・青森市・秋田市・宇都宮市)で開催された。今年で十六回目を数えるこの懇談会は、父母会の主要事業の一つとして毎年実施されている。今年も学長・副学長・学務局長に加えて両学部長と大学職員が各地に赴き、本学学生の父母に大学の現況、本学の教育方針、将来計画等への理解・協力を求め、併せて学生個々の学習・生活・就職活動等についての説明や報告と意見交換が行われた。

九段校舎・柏校舎では、本学四年次生二名による「就職内定報告会」が行なわれた。キャリアセンターの取組みや、現在の就職活動の様子を知る事ができて参考になったと、大変好評であった。

各会場では、参加者の関心が、学生の履修状況に関すること、就職状況に集中していたことが印象的であった。また、懇談会に出席することにより、大学の姿勢が理解できたとの感想も寄せられた。

猛暑の中実施された今年度の懇談会も、七月二十六日(土)の栃木会場を最後に全ての日程を無事終了した。

## 二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊  
平成20年10月20日発行  
(第62号)

二松学舎大学父母会  
(本部)東京都千代田区三番町6番地16  
(事務局)千葉県柏市大井2590  
〒277-8585 TEL.04(7191)8756

二松学舎大学柏教学課

題字は  
故 観山貞廣常吉先生書



六月二十一日(土)の福岡・新潟地区別懇談会を皮切りに全国各地で懇談会が開催され、父母と大学職員の交流が行われました。その内容を寄稿していただきました。

# 福岡会場

中野 大成

今年度からお世話になる二松学舎大学の地区別懇談会を、大変楽しみにしておりました。と言いますのも、我娘は佐賀県伊万里市という、焼物で少しは知られているかなという位の田舎から、考えもしなかった関東の大学という進学先に、家族一同、生活面・学業面などでたいへん不安に感じていたからです。

六月二十一日、私たち夫婦の気持ちを表すかのような曇りの天気でしたが、わざわざ今西学長自らご来福いただき、丁寧な説明に加え、担当の先生からも大学の現状や資格取得のこと、また就職状況等を詳細に、そして一つ一つの質問に、親身になってお答えいただき、その内容から、安心して通わせることのできる大学を選んでいったんだな、と安堵したところです。

参加された保護者も、私たちを入れて六名と少なくはありましたが、和気藹々の雰囲気、非常に有意義な、そして楽しい時間を過ごさせて



いただきました。新しく九段南校舎も、来年には竣工予定とのことで、本学が益々充実していくことを、たいへん嬉しく思っております。

渡邊好学務局長・志村孝教学課長お二人より卒業して頑張っている先輩の話、様々な経験をしてから進路を決めても遅くはないとの話等、肩を張らずに学生生活を送れる大学、皆さんの会話から理解出来、この大学に入学出来て良かったの思いで、有意義な一日を過ごすことが出来ました。また、学内の様子を紹介するビデオを見せて頂き校舎の中の様子等が少し理解出来たことに安堵しました。

細やかな学習指導、生活指導に心を砕いて下さる多くの職員の皆様の努力と百三十年の歳月によって積み重ねられた二松学舎大学の今後の発展をお祈りいたします。最後にこのような場を与えて下さった大学側の皆様深く感謝致します。



# 新潟会場

澤山 幹子

新潟も梅雨に入ってしまったもよい六月二十一日に開催されました地区別父母懇談会、案内を頂いた時は新潟の在学生は少ないので出席する方もあまり少ないのではと思いついていました。大学の事は何も知らない私にとつて少しでも教えて頂けたらとの思いで参加しました。



# 東京会場

陸名 明

七月五日土曜日、晴天のなか、二松学舎大学九段校舎において地区別父母懇談会が開催されました。

午前では懇談会を中心に行われ、会の冒頭には山岡父母会長の挨拶の後、今西学長からの挨拶の中で新校舎の整備計画、カリキュラム資格整備など将来構想も含めたお話がありました。引き続き、学部・学科の現状について、文学部は渡邊学務局長から、国際政治経済学部は渡辺副学長からそれぞれ説明がありました。更に、学生の学習状況及び学生生活について、馬淵教学課課長補佐から説明がありました。

昼食は父母会で用意していただきました「学食体験」があり、食後は都内全景が一望することができる十三階ラウンジで休憩することができました。

午後では就職状況について、神河キャリアセンター事務部長の説明後、二名の学生による講演会「四年次生による内定報告会」があり、本人の努力と希望の仕事に就職させてあげたいというキャリアセンターの取組みに改めて強く感動いたしました。



その後、希望者のみの個別相談(成績・就職・学生生活等)があり、丁寧な対応をしていただきました。最後に、今回初めて参加させていただき、二松学舎は建学精神に基づいた一人一人の学生と向き合ったきめ細やかな教育を実施されている大学と改めて痛感しました。父母会共々益々の発展をお祈り申し上げます。

# 千葉会場

高橋 勝幸

七月十二日、梅雨明けかと思うほどの快晴の中、柏校舎にて沢山の父母が参加して地区別父母懇談会が開催されました。午前中に行われた懇談会では今西学長、渡邊学務局長、渡辺副学長から大学及び各学部の近況報告があり、今西学長から二松学舎大学が在籍学生数五千名以下の大学では初めての格付「A」を取得したとお話を聞き、父母としては安心し、また誇りに思いました。昼食はランチカードを使用し、食堂で「学食体験」をさせていただきました。

昨今の食材の価格高騰のさなか、学生の為を思い安価な価格で提供して下さっている努力に頭がさがる思いでした。午後からの「就職状況について」では四年次生による内定報告が行われ、「生」の学生の就職にまつわる話が聞けて、親としても大変参考になりました。是非今後も続けてほしいと思います。

続けて行われた個別相談でも「履修登録確認表」及び「成績通知書」を参考にしながら説明していただき、親の目の届かない大学生活を知る事ができたのは何よりの収穫でした。



た。父母懇談会に出席してみても、改めて大学が丸と丸となつて学生の為に動いて下さっている事が判り、二松学舎大学の良さを親も理解した一日でした。今後も二松学舎大学及び父母会の益々の発展をお祈りいたします。

# 鹿児島会場

久木田 佐智子

梅雨も明け、本格的な夏の到来を  
思わせる暑い日、七月十九日(土)、  
鹿児島市に於いて、本学から野村邦  
近文学部長、高柳幸雄柏教学部長の  
ご臨席を頂き、二名の保護者の参加  
のもと、地区別懇談会が和やかに開  
催されました。また、現役でご活躍  
しておられますOBの南種子高校長  
・国上先生にもお忙しい中ご参加頂  
き、高校生の進路状況や、県内で活  
躍されている本学同窓の諸先輩の  
方々の状況もお伺いできて心強くも  
感じる事でした。学部長の丁寧な本  
学の理念や目標、新たな取り組み、  
本学の安定経営、新校舎の九段建設  
計画などの説明をお聞きし、百三十  
年の歴史と底力を感じました。二松  
学舎大学は、入学試験や入学式時に  
子供に伴って訪れてはおりますが、  
遠方で日常的な子供の生活について  
は把握できず、まずは大学や都会の  
生活に慣れて後、目標に向かって真  
面目に勉学に励んでくれればいいか  
なと思っておりました。キャンパス  
の様子もビデオで拝見させて頂き  
少々不安ぎみな個別相談でも履修状  
況、成績表等の資料をお持ち頂き分

かりやすく説明下さいました。さら  
に、就職対策におきましても専門的  
な講座やセミナー参加へのサポート  
もあり安心いたしました。  
本日は、少数の参加者にも関わら  
ず、関係者の方々には細やかな気配  
りのもと、このような会を催して頂  
き心より感謝申し上げます。ありが  
とうございました。



# 青森会場

佐々木 孝次

七月十九日、本学から渡辺副学長  
と井上教学部長にご出席いただき、  
父母懇談会が開催されました。父母  
の参加は大館市の方も含め、五家族  
八名とやや少なめでしたが、大学の  
状況についての丁寧なご説明やエビ  
ソードを交えたお二人のお話を聞く  
ことができ、参加して本当に良かった  
と思っております。

最後に渡辺先生から話された「周  
囲に感わされず、強い意志を持って  
いかに努力するかが大切です」とい  
うご助言は、就職希望に限らず、と  
ても大切な教えと受け留めておりま  
す。本当に有り難うございました。  
最後になりますが、これからも母  
校と父母会の益々のご発展を、津軽  
の地から願っております。



参加者の子供達の殆どが就職希望  
ということもあつて、説明後の懇談  
は終始その話し合いになりました。  
昨年度は二十二名が難関を突破した  
とのこと(残念ながら本県の採用者  
はなし)。私が在学していた際も教  
育実習は四年次の春でした。しか  
し、高倍率が続く地方の状況と他の  
私大や国公立大では三年次に実施す  
る傾向が強まっている実情をお伝え  
し、本学に於いても「三年次の教育  
実習の実現」をお願いしました。実  
際に実習から試験までの一ヶ月足ら  
ずで、面接や模擬授業等に挑めと言  
っても、簡単にできるものではありません。  
お二人とも真剣に聞いて下さ  
り、情報交換会の際に報告して下  
さると約束して下さいました。

# 秋田会場

奈良 まり子

梅雨明けの暑さの中、七月二十日  
秋田市において五世帯の父母の出席  
のもとで父母懇談会が開催されまし  
た。本学に娘が入学して四年目、卒  
業も近くなつてからの懇談会となり  
ました。

大学側からは渡辺和則副学長、井  
上和男教学部長がおいでくださり、  
簡単な自己紹介の後、大学の現況、  
学生の学習や生活状況、キャリアセ  
ンターの充実などの説明がなされ、  
娘から聞いていた本学の状況と合わ  
せて、より本学を理解することがで  
きたような気がします。ビデオも大  
変興味深く拝見させて頂きました。  
この会に参加したことで、大学  
側のきめ細やかな対応を理解するこ  
ともできましたし、遠く秋田から縁  
あつて同じ学舎で学んでいる子ども  
の保護者の皆様と同席、会食する有  
意義な機会を得ることもなりました。  
参加者が少なかったのは、とて  
も残念に思います。

このような父母懇談会の開催に感  
謝するとともに、二松学舎大学との  
出会いにも親として満足して帰つて  
きた次第です。



最後に、二松学舎大学の益々のこ  
発展をお祈りいたします。

# 栃木会場

綱川 まり子

今春、父母会の一年生としてスタ  
ートしましたが大学教育・理念・機  
構等は雲を掴むがごとしでした。折  
りしも地区別父母懇談会が地元宇都  
宮市で開催される事を耳にし、本学  
を知る上で願っても無い機会と参加  
しました。

誠に真摯に対応頂く姿勢に本学の  
「誠」の精神が感じられ、入学でき  
たことを幸運に思いました。  
今回、父母会を通して本学の方針  
等が目に見える形になり、有意義な  
時間を過ごせました。そして、大学  
と父母の相互理解協力が学生の人格  
育成に繋がり、延いては本学の発展  
を促すことと心に刻み、会を後にし  
ました。

当日の七月二十六日は酷暑の中、  
本学から鈴木国際政治経済学部長・  
菅原柏教学課長・馬淵教学課長補佐・  
父母十二名参加の交流会でした。  
最初は大学現況説明でした。少子  
化に伴い大学の都心回帰が始まり、  
本学は九段機能集約を目的に新校舎  
が来年竣工予定、環境整備充実を図  
っているとの伺い、躍進の息吹きを感  
じました。続いてキャリアセンター  
の取り組みやカリキュラム等の説明  
でした。就職に弱い印象を持たれが  
ちだが、実際は一年次から計画的に  
充実したサポートを行っていると同  
い、一人一人を大切にしている取り組み  
に心強さと安心感を覚えました。  
また、資格取得枠の拡大、卒業要  
件に必要な単位数の説明は一年次の  
親にとって大変参考になりました。  
最後は個別相談でした。父母の相





田中 麻里子さん

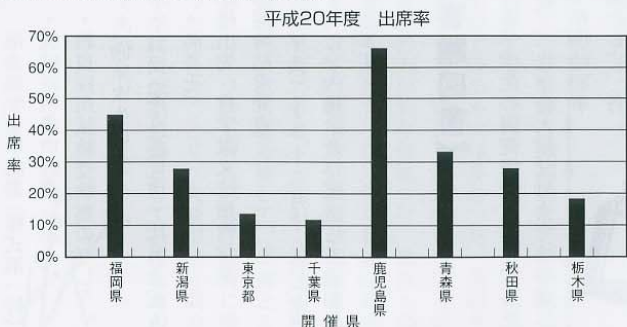
⑪就職活動中よく相談した人  
 ♣友人(就職活動している友人)、親、キャリアアセンター  
 ♣キャリアアセンター(社会人の先輩)、両親、他大学の友人  
 ⑫キャリア教育や就職特別講座について  
 ♣二年生時に、キャリア教育②と③を、三年生時にキャリア教育④を受けた。就職特別講座のおかげで力がつき、就職活動がスムーズにおこなえた。受講することをすすめる。  
 ♣数学対策、エントリーシートの書き方、面接やグループディスカッション、性格適性検査、女性学生限定のメイク講座などは非参加してほしい。他大学ではこのような多くの対

策講座がないことを知り、キャリアアセンターの方々に感謝している。  
 ⑬キャリアアセンターの活用について  
 ♣キャリアアセンターには、最初は行きづらかったが、履歴書の書き方について指導を受けたり、特に相談がなくても月に二、三回は顔を出すようになった。  
 ♣三年生になってからは、就職活動に関する相談や卒業生の就職体験記を読むなどして、自分のモチベーションを高めるためにもキャリアアセンターに足を運んだ。  
 ⑭就職活動を振り返って、父母へ伝えたいこと  
 ♣どのような業界に行け等、プレッシャーになる様なことは言わないでほしい。自由にのびのびと就職活動を見守ってほしい。親には相談しにくい悩み事も多いので、たまにはやさしく声をかけてあげるといいと思う。  
 ♣精神的にも経済面でも支援してくれたと思う。自分が受けようとした企業について、否定的な意見を言われたこともあったが、反対する場合は、やさしく遠まわしに言う。  
 (文責・父母会事務局)

平成20年度 地区別父母懇談会学年別出席者数

実施日	曜日	開催地	開催会場	学年	4年	3年	2年	1年	合計	出席率	実出席者数
6月21日	土	福岡県	福岡ガーデンパレス	学生在籍数	1	4	2	2	9		5
				父母出席数	0	1	1	2	4	44.4%	12
6月21日	土	新潟県	新潟東急イン	学生在籍数	8	12	5	15	40		141
				父母出席数	3	0	1	7	11	27.5%	148
7月5日	土	東京都	本学九段校舎	学生在籍数	213	152	187	181	733		2
				父母出席数	23	40	16	24	103	14.1%	8
7月12日	土	千葉県	本学船橋校舎	学生在籍数	245	222	218	240	925		2
				父母出席数	5	9	33	60	107	11.6%	8
7月19日	土	鹿児島県	アーバンポートホテル	学生在籍数	2	0	1	0	3		1
				父母出席数	1	0	1	0	2	66.7%	1
7月19日	土	青森県	青森グランドパレス	学生在籍数	4	6	2	3	15		1
				父母出席数	1	2	2	0	5	33.3%	1
7月20日	日	秋田県	ホテルパルシティ秋田	学生在籍数	6	3	5	4	18		1
				父母出席数	1	1	0	3	5	27.8%	1
7月26日	土	栃木県	ホテルサンシャイン宇都宮	学生在籍数	16	16	11	15	58		13
				父母出席数	0	2	3	6	11	19.0%	337
				在籍数合計	495	415	431	460	1801		
				出席数合計	34	55	57	102	248	13.8%	

※実出席者数欄は、両親が出席の場合は2人として計算。



### 平成二十年度地区別父母懇談会を終えて

七月二十六日(土)、栃木会場(ホテルサンシャイン宇都宮)の開催をもって、平成二十年度の地区別父母懇談会はすべての日程を終了しました。  
 開催された八会場の全出席者は、二四八名、全体では13・8%の出席率でした。各地区の在籍数に対する割合を開催地に見ると、福岡会場44・4%、新潟会場27・5%、東京会場14・1%、千葉会場11・6%、鹿児島会場66・7%、青森会場33・3%、秋田会場27・8%、栃木会場19・0%となりました。  
 東京・千葉会場は、出席率からみますと、他の地域に比べ低いです。年々出席される父母の数は、増えています。  
 これからも会員の皆様のご意見を聞きながら、来年度に向けて地区別懇談会の内容を検討していきたいと思っております。

### 平成二十年度 地区別父母懇談会 就職内定報告

【報告者】 国際政治経済学部同科 四年 新井 拓也さん  
 文学部 国文学科 四年 田中 麻里子さん

地区別父母懇談会の東京・千葉会場では、初めての試みとしてキャリアアセンターによる「四年次生による就職内定報告会」が行われました。二名の学生から、次の様に各テーマに基づいて報告がありました。

- ①就職を考え始めた時期  
 ♣三年生の夏、リクナビ・マイナビという就職サイト(インターネット)に登録した。  
 ♣大学入学時から考えていた。一年生の時からキャリア教育の授業を受けていた。  
 ②実際に就職活動を始めた時期  
 ♣夏休みにリクナビの就職サイトのイベント(合同説明会)に参加。個別説明会は三年生の十一月に初めて参加した。  
 ♣八月、リクナビ主催の合同説明会に参加した。個別の企業説明会に参加し始めたのは、三井住友銀行の女性限定の説明会から。  
 ③業種・職種を決めた時期と決めた理由  
 ♣最初はどのような業界に行きたいかわからないまま、就職サイトをエックしていた。業種についても、やりたいことがなかった。逆にどんな仕事が好きかというのを考えてみた。三年生の一月頃に、メーカーが商社で、お客様と会話する営業に就きたいと思い始めた。  
 ♣業種と職種を特に限定することはなかったが、お客様が幸せになるためのお手伝いができる仕事や、地域に密着した職業に就きたいと思っており、千葉県の企業を中心にまわっていた。また、文学部出身で、資格がなくても就職できる仕事を探していた。  
 ④会社へのエントリー数と開始した時期  
 ♣五十社。リクナビ・マイナビという就職サイトが三年生の十月に新規オープンしてから。  
 ♣七十社。他大学の人は百社以上エントリーしていた。八月開催のリクナビ合同企業説明会は、学校名と自分の連絡先を提出してから企業の話の聞くというシステムになっており、提出した時点でエントリーとなった。  
 ⑤受けた会社の調べ方についてどの



新井 拓也さん

- ⑥合同企業説明会への参加回数  
 ♣九回。キャリアアセンター主催の学内説明会や、就職サイトが企画したイベントへ行った。  
 ♣八回。三年生の十一月、土日に開催されている説明会へ行った。  
 ⑦個別の会社説明会へ参加した社数  
 ♣二十五社  
 ♣十五社(二十四回)  
 (一つの企業が別の内容で何度も説明会を開催しているから)  
 ⑧実際に採用試験を受験した社数  
 ♣十二社(説明会に参加した数の半分)  
 ♣三社(第一希望から受けていった)  
 ⑨面接で聞かれた事柄  
 ♣④志望理由⑤ゼミではどういうことを研究しているのか⑥サークル活動について⑦どんな社員になりたいか⑧どういう仕事をしたか①時事問題、最近のニュースについて  
 ♣②エントリーシートや履歴書にかけられている基本的なことを聞かれた。自己PR、志望理由など。⑩大学時代に頑張った事⑪家族と仲がよいか⑫ゼミでは何を研究しているか⑬卒業論文では何を書く予定なのか⑭どの程度卒業論文を書き進めているか⑮周囲の人からあなたはどのように思われているか⑯どういう人間だとよくいわれるか⑰以上は、受けた会社全てに聞かれた。  
 ⑩就職活動で苦労したこと  
 ♣就職活動は、スーツや靴、交通費などにお金がかかるため、アルバイトとの両立に苦労した。さらにゼミの課題も重なり、大変だった。  
 ♣十二月に説明会が多く、部活の行事やキャリアアセンター主催の説明会

夢を掴め!  
父母会は皆さんの夢を  
応援します。

《特別事業のお知らせ》

二松学舎大学130周年記念父母会奨学金

～第1種は随時、第2種は10/27から第2回募集を開始します!!～

二松学舎大学130周年記念父母会寄贈図書

～各ゼミナールへ図書を寄贈します～

【奨学金】

父母会では本学の建学の精神及び本学が果たしてきた社会的役割を継承し一層の発展を期すると共に、本学学生の勉学環境支援を図るために、二松学舎大学百三十周年記念父母会奨学金を設けました。  
応募希望の学生は、教学課または柏教学課で必要書類を受け取り、申請手続きを行ってください。

第一種奨学金

- ① 応募資格  
本学に在籍する学部生で、家計支持者の死亡または失業、長期療養など並びに火災、風水害、地震などに罹災し修学が困難な一年次生、二年次生及び三年次生とする。  
(但し、日本学生支援機構奨学金緊急・応急の採用を出願していることを条件とする。)
- ② 給付人数 若干名
- ③ 給付額 当該年度において授業料相当額を給付する。
- ④ 選考方法 書類選考及び面接
- ⑤ 申請期間 随時
- ⑥ 提出書類 一号申請書、日本学生支援機構奨学金緊急・

第二種奨学金

- ① 応募資格  
本学に在籍する学部生で、本学の教職課程を履修中且つ将来教員となることを強く希望している二年次生、三年次生及び四年次生を対象とする。なお、四年次生については、本年度の教員採用試験に出願している学生。
  - ② 給付人数 各年次 十名以内
  - ③ 給付額 十万円(給付)
  - ④ 選考方法 書類選考の上、面接を実施する。
- ※第一回募集は終了しました。  
第二回募集について  
○申請期間  
平成二十年十月二十七日(月)～十一月二十八日(金)  
○面接日  
平成二十年十二月六日(土)  
○提出書類  
・二松学舎大学百三十周年記念父

応急申請に係わる証明書及び必要と認められる書類等

- ⑦ 提出先 教学課または柏教学課
- ⑧ 面接日 申請後、指定された日
- ⑨ 選考結果 本人宛に通知する

母会奨学金申請書(様式第一号)  
・成績証明書申込書  
・教員採用試験受験票の写し(四年次生のみ)  
・封筒(本人宛住所・氏名を記入のこと)  
○提出先 教学課又は柏教学課  
○選考結果発表  
平成二十年十二月十八日(木)に学内掲示及び郵送にて通知します。

【寄贈図書】

本学学生の研究環境支援を図るため、二松学舎大学父母会では平成二十年特別事業として、各ゼミナールに対し研究用図書を寄贈することとなりました。  
★各ゼミナールへの寄贈図書については、父母会ホームページ上で公表します。



理事長  
大山 徳高

私は、生まれも育ちも北海道です。誕生は苦小牧ですが、十歳の時に父が海で遭難したため、道央の芦別にある父の弟の家に引き取られ、二十三歳で大学に入学するまで山深い街を出ることはありませんでした。



学長  
今西 幹一

大学での学部四年間の私の生活は、殆どゆとりのない生活であった。学友たちが映画に、ダンスパーティーに、旅行にと、現をぬかす中、例えば旅行は父の生地伊勢への盆ごとの墓参、クラブやゼミの合同合宿の外は、信濃路への四泊五日のゼミ旅行、所属の文芸同人誌の発行所であった伊予松山へ一泊二日の旅、思いがけず全国学生短歌大会に拙歌が

後優先的に会社に採用される鉱山学校に進学しました。高校卒業の資格のない学校でした。

一九五七(昭和三十一年)、私の気持ちを衝き動かす出来事が起こりました。ソ連の人工衛星打ち上げでした。鉱山学校一年生の時です。人類の進歩に強い衝撃を受けた私は、鉱山学校卒業後、昼は鉱山で働き、夜は定時制高校へ通い、望みどおり、一九六四(昭和三十九年)四月二日、二松学舎大学文学部国文学科へ入学。東京オリンピックの年で、日本中が熱気に包まれ、入選しその受賞のための夜行列車を利用した二泊三日の上京くらいはいいかな。母子家庭で家業の切り盛りを母と計らねばならなかった。当時は従業員がだんだん得がたくなり、商品の配達等家業の重要戦力であったからである。授業はなるべく午前中に取り、昼休みの部活動(短歌部)に参加した後は一目散に家に帰り、御用聞き、配達に精を出した。家業はほぼ年中無休、夜は夜でバーやクラブ、料理屋に追加の注文を届けるために待機しなくてはならなかった。表向きは、

私の  
学生時代

れ、特に開催地東京は活気に溢れていました。

新しい時代に引き寄せられるように北海道の片田舎から東京へ出てきました。見るもの聞くものすべてが驚きであり、大学での授業では学問の高揚を覚えました。  
一方、学生数は少なく、国文・中文同一クラスの一、二年生が学年全体として打ち解けるのに時間はかかりませんでした。仲間もでき行動を共にすることが多かったと思います。集団でアルバイトをしたり、デモにも出かけました。

しかし、内面的には極めて豊かな四年間であったと思う。まず日本文芸学という学とそれに取り組み姿勢を啓発してくれた實方清・田中俊一という二人の教授との出会い、そしてそれまで創作的にしか対応して来なかった文芸に研究を通して真髓に迫り、体系化を図ることの喜び、ミッシェンスクールに学ぶことで、そして受洗はうんと後日になったもののキリスト教とのより深い出会い、それを

た。学問についてもよく議論し、卒業論なども異分野でありながら私の下宿に六人ほど集まり仕上げたものです。私は哲学が好きで、授業の後、九段下の駅まで先生のお供をさせていただきよくお話を伺いました。  
校舎は前時代的木造で、廊下の所々に小さな穴があり、故石川梅次郎先生には、たばこの火を落とさぬよう注意されたこともありましたが、在学時は少しも気になりませんでした。よき師に恵まれ、よき友に出会い、国文学のみならず、中国文学の世界を垣間見ることができ、幸せな学生時代でした。

通しての敬虔と謙抑的な日常生活の獲得、他者への愛の持ち方等々大学生活で得たものは多かった。進路をめぐって、選択した大学についての自己の内面的な価値づけ、異性への愛等、克服すべき内的な葛藤は絶えず、そうした精神的訓練が成長をもたらしてくれた。とまれ、将来の研究者への志と道を秘して、卒業とともに、キリストの死の後に四方に散った使徒のごとく、大阪市の片隅の中学に一国語教師として赴任したのであった。



# 二松学舎大学 創縁祭 2008 『二二一年、異彩を放つ秋の乱』

開催日 平成20年11月2日(日)・3日(月・祝)  
場所 九段キャンパス

平成二十年度学園祭実行委員長を務めさせていただいてます堀内陽です。昨年の一三〇周年から新たな一年が二松学舎の歴史に刻み込まれました。この一三一年の間に積み上げてきた歴史を崩さないよう、責任を持って取り組む所存です。

さて今年のテーマですが、「一三一年、異彩を放つ秋の乱」に決まりました。一三一をイサイと読み、異彩だけではなく偉才等、様々な意味で捉えて考えました。学園祭を企画するにあたって一番に考えたのが、温故知新の精神を持ち、あくまで新しいものを目指していきたいということでしたので、とらわれないという部分で共感して決定しました。今年も、多くの来訪者を呼び込む為に、様々な参加型の企画を用意する事が決定しております。また、装飾を兼ねる企画でもって、学生の雰囲気来訪者に伝えようとも考えております。さらに、昨年も行われた「超」マニアックな問題を

九月二十二日、大学では秋セメスターがスタートいたしました。四年生の企業への就職内定状況については、昨年同時期と比較して芳しくない状態です。

七月までは、企業の採用意欲も旺盛でした。しかし、それ以降は採用を終了する企業が多くなっており、本学でも、未内定の四年生が就職活動を継続しており、キャリアセンターでも夏期休業中も企業を紹介するなどの支援を実施してまいりました。

今後も、就職を希望する学生全員が内定するまでキャリアセンターでは支援を継続いたしますので、まだ決まっていないお子さんには来室するようお願い下さい。また、ご父母からの相談もお受けいたしております。ご遠慮なくご相談下さい。

教員については、都道府県の教員採用試験一次試験が七月中に実施され、十名が合格して二次試験に臨んでおります。最終発表は十月です。全員が合格することを祈

## キャリアセンターだより

公務員については、警視庁や千葉県警などの警察官試験に六名合格しております。市役所などは今後になります。

さて、三年生については、この夏休み中に就職情報会社主催の三年生対象就活プレセミナーが多数開催されました。これらセミナーには他大学の三年生も多数参加しています。参加した本学の三年生にとっては良い刺激になったことでしょう。

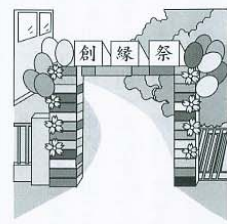
キャリアセンターでは春セメに引き続き「就職特別講座」を毎週木曜日の三限目、四限目に実施して、来るべき就職活動に備えさせます。講座の内容は、筆記試験対策と面接対策を中心としたものです。

三年生に対する就職環境は厳しくなることが予想されており、この講座を受講し、十分な準備をして欲しいものです。十月からは、個人面接を全員に実施いたします。必ず受けるようお子さんにお伝え下さい。

ブラリーやじゃんけんゲーム等の気軽に参加できる企画を数多く用意しております。また中庭では学内団体による様々な種類の模擬店が開かれております。どんなものがあるのかは創縁祭迄のお楽しみという事で宜しくお願致します。学園祭実行委員一丸となって創縁祭を盛り上げていこうと考えております。

どなたもご家族、ご友人をお誘い合わせの上、お越し下さいませよう、宜しくお願い致します。主な企画の紹介

- ◆文化発表
    - 11月2日(日) 10時~17時
    - 11月3日(祝) 11時~16時
  - ◆模擬店
    - 11月2日(日) 10時~16時
    - 11月3日(祝) 11時~15時
  - ◆芸能人ライブ
    - 11月3日(祝) 16時~18時
- 場所：中洲記念講堂  
出演者：アンジャッシュ  
キャン×キャン



## 父母会からのお知らせ

父母会の無料 休憩所が  
12F 1201号室  
に設けられています。  
ぜひお気軽にお立ち寄りください。  
\* 無料のお茶・コーヒー等をご用意しています \*



中学校でスクールカウンセラーを勤めていたころ、先生方は、年々増える親御さんの苦情対応に苦慮されていました。毎晩教師宅に電話をして説教を繰り返す、自分と仲の悪い親の子どもの行動を逐一学校に報告する...このような些細なトラブルで、子ども自身の解決への取り組みを待たず、代わりに解決しようとして、親御さんが攻撃的、被害的になってやってくるケースも多く、戸惑ったことを覚えていきます。しかしこれは、「養育」の最中には、自然なことかもしれません。

## 学生相談室 だより 62

カウンセラー 阿部千香子

このような親御さんがいらしたとき、私は、「親自身のよりどころのなさ」を感じます。子どもが問題を抱えたとき、自分から離れて自立していくとき、その不安やさみしさをじっくり抱えるのはとても大変なことです。しかも、その思いを分かち合う相手がいないという孤独を抱えていたら、なおさら。

しかしながら、最近では、「養育」を過ぎた大学においても、自分でやるべきこと(手続きや問い合わせなど)、自力で取り組むべき問題(友人関係や進路選択など)で、親御さんが代行したり、代理相談にいらしたりするケースが増えてきました。大学生の課題は自立へ

相談、時には苦情と言う形で大学にいらつしやる親御さんの話をうかがっている、「よりどころ」として学校を選び、分かち合おうとしていらつしやることを感じます。そんな親の心を知れば知るほど、「モンスターペアレント」という言葉で片付けてほしくない、という思いが強くなるのです。

# アメリカの東アジア研究事情

教授 佐藤 一樹

近代中国の思想史から日本と中国の比較文化史へと研究領域を広げてきた私にとって、教育も研究も東アジアの枠組みでなされることの多いアメリカは、常に刺激ある情報の発信地だった。今回父母会の助成を頂いてアメリカ東海岸に滞在したことで、そうした情報発信を続ける研究者たちと直接面談することができ、書物だけでは得られない多くの事柄にふれることができた。

当初訪問先として、日本でもその名が知られているドナルド・キーンやエドワード・サイデンスティッカーが在籍していたニューヨークのコロンビア大学東アジア研究所のみを予定していたが、ボストンまで足を伸ばし、ハーバード大学にも行くことができた。というのも、鉄道が未発達なアメリカには珍しく、四〇〇キロ少々の距離を四時間弱で結ぶ特急の存在を知ったからである。遅延が日常的で面倒なセキュリティチェックもある飛行機と比べれば、はるかに気軽に利用できる。

さてアメリカの研究状況だが、まず中国の存在が大きくなってくるとともに、アジア研究でも中国分野が



コロンビア大学 C・V・スター図書館前にて

相対的に重視されてきている。日本研究者は博士論文を完成させても、なかなか出版の見通しがつかないという。ただそれもコップの中の争いで、アメリカの文化・歴史研究においては、欧米を対象とするものが質量とも圧倒的であり、東アジアはどうしても日陰の存在とならざるをえない。その結果、東アジアの研究は否応なく欧米分野の研究動向を気にせざるを得ないというところらしい。どここの国にもお家の事情というものがあるのだ。

# 高度成長と北京

准教授 瀧田 浩

九月五日から八日まで北京を訪れた。主要な目的は、首都師範大学でおこなわれた、今度で二回目となるシンポジウム「日中高度成長期におけるメディアと文化」への参加である(一回目は二年前・同所)。

シンポジウムは、首都師範大学文学部・陶東風氏「インターネット・コミュニケーションと新しい公共圏の構築」と、立教大学・藤井淑淑氏「高度成長期の読者と読書」の基調講演から始まり、玉川大学・渡邊正彦氏「『集団』から『個人』へ」、立教大学・石川巧氏「高度成長期の文学における『日本回帰』」、瀧田「日本児童漫画の変質と中国の漫画政策」、北京師範大学・王志松氏「九〇年代における『情欲小説』をめぐる出版市場」、首都師範大学・王成氏「中国における日本の大衆文化研究」の五本の研究発表へと続いた。

シンポジウムは八時間を越える熱を帯びたものとなった。私は、一九六〇年代後半以降、日本の漫画が自由と欲望を追求する文化として児童向けメディアから「成熟」する一方、その裏面に孕まれる問題と、現在の中国が抱える公的な支援と規制による漫画メディアの「未成熟」の問題を交差させて考える試みをした。

シンポジウム当日は、北京バラリニック開幕日であり、オリンピックの予熱もまだ残る頃だった。七日には、清朝末・中華民国初期の街並みを再現した前門大街を見学した。中国における経済成長にともなう文化と暮らしの変容に直接触れる旅となった。



シンポジウムの様子。発表は王志松氏。

# 《島田ゼミナール》

私たちのゼミは、日本語学について研究するゼミです。語誌研究を主とし、具体的な個々の語をめぐり、語の成り立ちや意味用法とその変遷などについて学びます。三年次は島田先生が提示された語の中から選択し、研究方法の基礎を学びます。そして四年次で自ら興味をもった語を題材とし、研究します。最も身近な日本語の中から研究テーマを見い出す楽しさも味わえます。

# 《星ゼミナール》

私たちのゼミは、社会学を勉強するゼミです。「君の属する国は」と聞かれれば日本と答え、「君の家は」と聞かれれば山田家、父は山田和夫などと答えることができず、では「君の属する社会は」と聞かれると答えることの出来る人はいないでしょう。国と家族は具体的にすぐに答えられますが、社会で何を聞いているか即座にわからない。吉祥寺駅前ですとかでは変な感じですよ。

担当の島田先生はいつも明るく、学生が興味を持ちやすいように「笑い」を混ぜながら指導して下さいるので毎回楽しい授業が展開されています。夏季合宿中の自由時間で観光している際も、売店のメニューや職に目を光らせ、表現の面白さや日本語オッチングを楽しく学びました。

所属する学生は四年生五人、三年生十七人、聴講生一人の二十三人で学んでいます。全員仲良く、勉強と遊びのけじめをはっきりつけ、両者とも活発に活動する集団です。

夏に行われた合宿では、「二人の研究はみんなの研究」

# ゼミ探訪

このころが、「国際政治経済学」は「社会学」で、広く「社会学」を研究する学問です。研究対象である「社会学」を知らずして研究は成り立ちません。そこでこのゼミでは「社会学」の基礎概念である「社会」という概念を、アレントの英文のテキストを読みながら探求してゆくのが主要目的です。家族とは何か、国家とは何か、私と公の区別、労働と仕事と活動の区別などアレントの主要概念を研究します。

英語が得意な学生が多いため、平気でどんな英語でも読んでゆきます。三年の秋くらいから学生たちは

を目標に、春 semester で発表した内容の補足・発展発表(三年)と卒業研究の進捗報告発表(四年)を行いました。学生の自主性を重んじた質疑応答と行き詰まった際の島田先生の助言により、内容の濃い授業となりました。二日目のコンパでは盛り上がり、歌うという島田ゼミの「ノリ」の良さを発揮しました。

一人の研究をゼミ全体で深め、全体で学んでいけるようなゼミを全員で築いていきたいと思っています。

就活(就職活動)をはじめますが、実社会では会社の一員として公の顔で暮らし、アフターシックスは自分の好きなことができる。仕事が終わったら私的に自由だ。アレントの私的と公的の区別で話す学生は念仏みたいな話とアレントを理解していたのに実際の身近のことを理解するのに役立つ生きた哲学だとわかり研究に専念するようになり、次の週に面接成功し内定ももらったという報告があり、以後次々と決まると私のような高齢者でも若い人の力になれることが実感され教育者の喜びを感じているこのころです。



第4回シンポジウム『論語』

いま『論語』は、社会の至るところで活きた力となつて人々に受け入れられ、広く発信されている。今回は、『現代に活きる『論語』をテーマに掲げ、社会に伝え続けている方々、内在する知恵を現実を活用している方々の実践成果を報告いただき、『論語』の精神を学び、活かし、次世代に伝えるべく、更なる魅力を探る。

日時：平成20年11月29日(土) 10時～16時45分

会場：中洲記念講堂

テーマ：『現代に活きる『論語』』

シンポジウム概要

特別対談：『自分になる為の『論語』』

前田 日明 (株式会社)

リングスCEO

報告

① 弾 和順 (北海道大学大学院 文学研究科教授)

② 浅野 進太 (二松学舎大学附属 高等学校教諭)

③ 溝本(安圃)定子 (文京区「文の京(ふみのみ) やこ」子ども論語塾講師)

※お問合せ：二松学舎大学(学務課)

国際政治経済シンポジウム

インフレ・国際マクロ経済ショック・環境・資源等、種々の制約を乗り越えた持続的発展のための東アジア協力 日時：平成20年12月6日(土) 12時30分～18時

会場：中洲記念講堂

主催：二松学舎大学

共催：米国大使館東京アメリカンセンター、海外投融資情報財団、日本貿易振興機構

※お問合せ：二松学舎大学(柏教学課)

源氏物語千年記念企画

『源氏物語』特別講演

能「奏上」鑑賞会

日時：平成20年12月19日(金) 17時～20時

会場：中洲記念講堂

第一部：『源氏物語』特別講演

『野宮の別れ』

鈴木日出男

第二部：能楽鑑賞

津村禮次郎

大藏教養

ご来聴歓迎(入場無料)

※お問合せ：二松学舎大学(教学課)



父母会から

卒業アルバムを

贈呈します



今年度より、卒業記念品として学生生活の思い出が詰まった卒業アルバムを、父母会から贈呈することになりました。

つきましては、左記のとおり卒業アルバム用の写真撮影を実施します。

特に個人撮影については、この機会を逃すと、卒業アルバムに掲載されないこととなります。(名前のみの掲載になります)是非ご参加下さいませ。

★撮影期間 10月27日(月)～10月31日(金) 計五日間

★撮影時間 10時～16時30分(全日)

★撮影場所(九段校舎) 個人写真：地下二階学生ホール

ゼミナール写真：一階正面入口階段前(雨天時は地下二階学生ホール)

※ゼミナール写真は、ゼミ単位に指定された日時に撮影します。

編集後記

父母会報第六二号をお届けします。会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。

今回の会報は、六月から七月にかけて全国八会場で行われた地区別父母懇談会の模様をお伝えすることに多くのページを割いています。懇談会への実参加者は、昨年より二四名多い三三七名でした。そして、会員の皆様から、多くのご意見が寄せられました。今後に活かしてまいります。

また、今回の会報では、特別事業として行っています「二松学舎大学一三〇周年記念父母会奨学金」「二松学舎大学一三〇周年記念父母会寄贈図書」についても掲載しています。

さらに、今回より新規連載として教員のプロフィールを紹介するページをスタートさせるなど紙面の充実を図りました。父母会としましては引き続き、会員とともに、会報の充実に取り組んでまいります。会員の皆様からのご意見を歓迎します。

さて、本学の「創縁祭」は、十一月二日、三日です。父母会も毎年参加しており、今年も気軽に立ち寄っていただけるよう準備を進めています。お茶とおしゃべりのひと時をお楽しみください。お待ちしております。時節柄ご自愛のほどお祈りします。